

健康ワンポイントアドバイス

発行：十日町市中魚沼郡医師会

発行日：令和3年9月発行

第230号



● 帯状疱疹について

新潟県立松代病院

院長 鈴木 和夫 先生

帯状疱疹（たいじょうほうしん）という病気を発症したり、聞いたことがあるという方も多いと思います。令和3年は、新型コロナワクチンが多くの人々に接種されていますが、帯状疱疹にもワクチン接種が有効とされています。

今回は、帯状疱疹について考えたいと思います。

【帯状疱疹とは？】

身体の左右どちらか一方に、ピリピリと刺すような痛みと、これに続いて赤い斑点（はんてん）と小さな水ぶくれが帯状（おびじょう）に現れる病気です。

【原因は？】

水痘帯状疱疹ウイルス（VZV）により引き起こされます。水痘（水ぼうそう）がVZVによる初めての感染症状であるのに対して、帯状疱疹は体内の神経節に潜伏感染していたVZVが、加齢やストレス、過労などが引き金となって再活性化し、神経に沿って特徴的な皮疹をきたす疾患です。

【発症年齢は？】

50歳代～70歳代に多くみられますが、20歳以下の方にもみられ、まれな疾患ではありません。

【症状は？】

最初にも記載しましたが、体の片側の神経に沿った特徴的な皮疹や、その部位の痛みなどが出現します。顔の帯状疱疹では、目の角膜炎や結膜炎などを起こすことがあります。まれに顔面神経麻痺なども生じることがあります。

また、皮疹が改善した後も痛みが持続する“帯状疱疹後神経痛”を長期にわたり自覚することもあります。

【治療は？】



内服あるいは注射の抗ウイルス薬で治療が行われます。抗ウイルス薬はウイルスの増殖を抑えることにより、急性期の皮膚症状や痛みなどをやわらげ、治るまでの期間を短縮します。さらに合併症や後遺症を抑えることも期待されます。また、痛みが続き“帯状疱疹後神経痛”と考えられる場合などには、消炎鎮痛薬が使われたり、神経ブロックという治療が行われることもあります。

【帯状疱疹ワクチンについて】

国内では、2種類の帯状疱疹ワクチンが使用可能となっています。特に「シングリックス®」は50歳以上で97.2%、70歳以上でも89.8%の発症予防効果が認められています。(N Engl J Med., 2015)。通常50歳以上の人に接種されます。帯状疱疹後神経痛の発生率も減らすとされています。感染症専門の国内医療団体は、50歳以上の医療従事者に接種をすすめており、私も先日1回目の接種を行いました（接種翌日に、悪寒・筋肉痛が出現しました。今度、2回目の接種を予定しています。）

【最期に】

様々な分野で医療は進歩しています。発症予防や症状の重症化予防にワクチンが有効であることは新型コロナワクチンで盛んに報道されていますが、実は帯状疱疹にもワクチンが開発され、実際に使用可能となっています。

関心のある方は、一度医療機関で相談されてはいかがでしょうか。

(注：東京女子医科大学名誉教授 川島眞先生の資料を参考に作成しました)

